

三朝町男女共同参画プラン

おもいやりの心で、笑顔あふれる地域をつくりましょう！



平成18年3月

鳥取県三朝町

目 次

第1章 基本構想

1 計画策定の基本方針	3
(1) 計画策定の趣旨	3
(2) 計画の性格と役割	3
(3) 計画の期間	3
2 計画の体系図	4

第2章 基本計画

基本目標Ⅰ

『男女の人権が尊重され、男女が共に主体的に生きることができる社会づくり』・ 5

重点目標 1 男女の固定的役割分担意識を解消し、男女が共に主体的に生きるための意識改革	5
重点目標 2 女性に対するあらゆる暴力の根絶	6
重点目標 3 性と生殖に関する意識の浸透	7
重点目標 4 国際社会との連帯及び交流の促進	8

基本目標Ⅱ

『あらゆる分野で男女共同参画を進めることができる社会づくり』・ 9

重点目標 1 政策決定等への男女共同参画の推進	9
重点目標 2 男女共同参画の視点に立った社会通念の確立	10
重点目標 3 男女共同参画のための自立支援	11
重点目標 4 男女共同参画の視点に立った高齢社会への対応	12

基本目標Ⅲ

『職場、家庭及び地域において多様な生き方を選択できる社会づくり』・ 13

重点目標 1 男女平等な雇用環境の整備	13
重点目標 2 農林業、自営業におけるパートナーシップの確立	14
重点目標 3 家庭と他の活動の両立及び多様な生き方支援	15

第3章 プランの推進に向けて

1 推進体制	16
(1) 行政における推進体制と進行管理	16
(2) 町民、県及び関係機関等との連携強化	16
2 プラン推進のための「家庭・地域・職場における男女共同参画のすすめ」	16

第4章 三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査結果

三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査の概要	18
三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査結果	23

参考資料

三朝町男女共同参画プラン策定委員会設置要綱	47
三朝町男女共同参画プラン策定委員会委員名簿	48
三朝町男女共同参画プラン策定までのあゆみ	49

第 1 章 基本構想

1 計画策定の基本方針

(1) 計画策定の趣旨

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことをいいます。

男女共同参画社会の実現に向けて、これまで様々な取り組みが行われてきましたが、依然として固定的な性別役割分担意識は根強く残っており、男女共同参画の理念が私たちの生活に根づいたものとはなっていません。こうした中、平成 11 年 6 月 23 日に男女共同参画社会基本法（平成 11 年法律第 78 号）が公布・施行され、鳥取県においても平成 12 年 12 月 26 日に鳥取県男女共同参画推進条例（平成 12 年鳥取県条例 83 号）が公布・施行されるなど法的整備が進んできました。本町におきましても、これらの理念を踏まえ、様々な取り組みを行ってきましたが、性別による固定的な役割分担意識やそれに基づく社会慣行は依然として根強く、総合的・計画的な施策の展開が求められているところです。

私たちが目指す男女共同参画社会は、男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、個性と能力を十分に発揮できる豊かな社会であり、その実現は「住み続けたいまちづくり」を標榜する本町にとっての最重要課題であります。そうした男女共同参画社会を築くための具体的な道筋を示し、男女共同参画社会の実現に向けた施策を総合的・体系的に推進するため、男女共同参画社会基本法に基づく「三朝町男女共同参画プラン」を策定します。

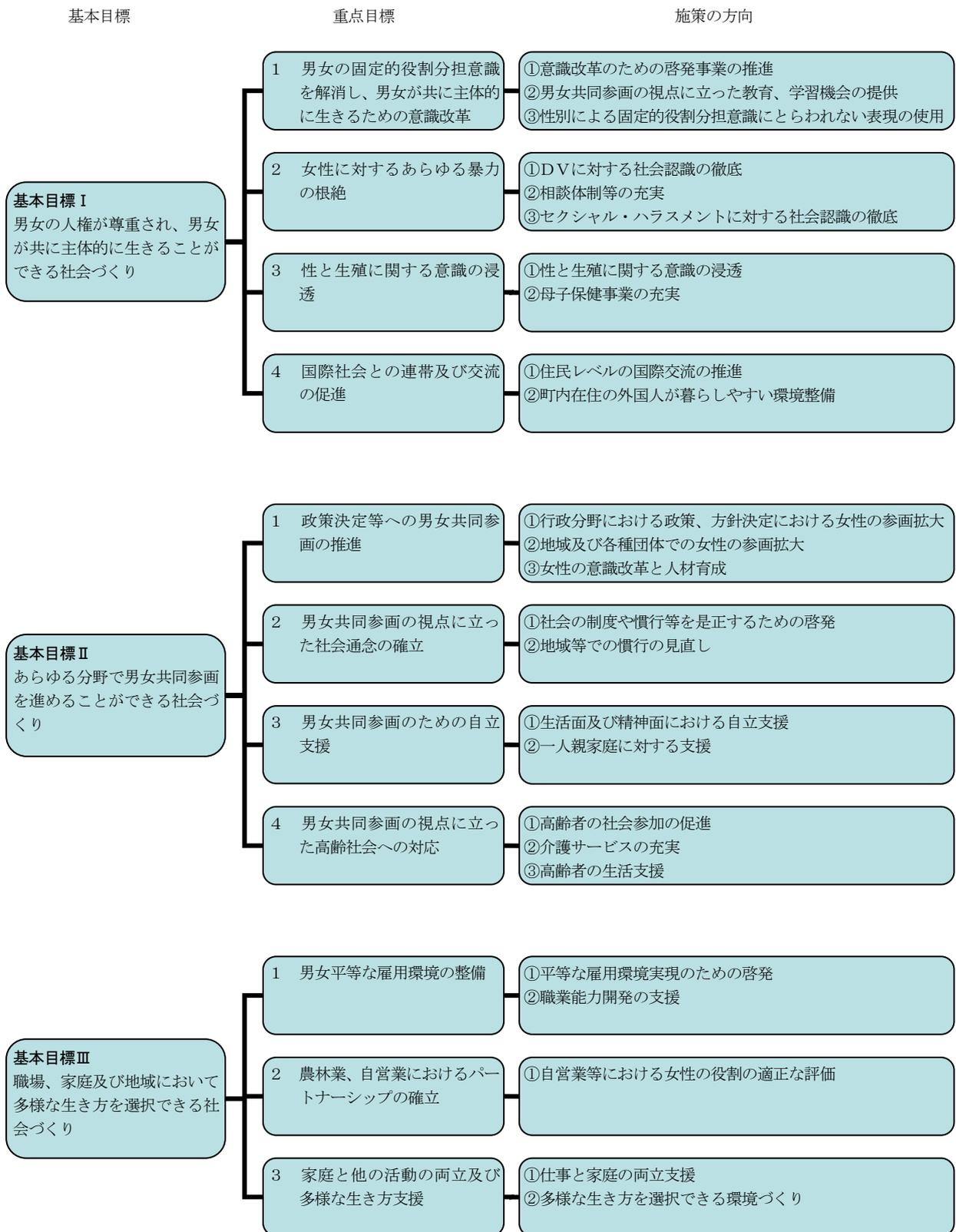
(2) 計画の性格と役割

- ① 男女共同参画社会基本法第 14 条第 3 項の規定に基づいて策定するものです。
- ② 国の男女共同参画基本計画、鳥取県男女共同参画計画及び三朝町総合計画など各種計画との整合性を図りつつ、男女共同参画社会の実現に向けた町の基本的取組の方向と具体的施策を示し、男女共同参画社会の形成を推進するための町民の指針となる行動計画とします。
- ③ 民間企業、民間団体等に対しては、この計画の趣旨に沿った活動や事業の取組を積極的に町と連携して行うことを期待するものです。
- ④ 町民に対しては、この計画の趣旨を理解し、家庭、地域社会等における活動において自主的に男女共同参画の推進に向けた取組を行うことを期待するものです。

(3) 計画の期間

この計画は、三朝町総合計画の基本計画期間に合わせ、計画の策定から平成 22 年度までの間とします。

2 計画の体系図



第2章 基本計画

◆基本目標Ⅰ 男女の人権が尊重され、男女が共に主体的に生きることができる社会づくり

「男性はこうあるべきだ」とか「女性はこうあるべきだ」といった固定的な考え方や性別による差別や偏見は、私たちが幼い頃から日常生活、学校、地域、職場などあらゆるところで無意識のうちに身につけ、深く社会に根づいていて、何が問題なのかさえ気付くことが難しくなっています。

また、町民意識調査の結果を見ても「男は外で仕事、女は家庭」といった固定的な役割分担意識は、多様化したライフスタイルに対応できなくなっているにもかかわらず、いまだに約半数の方がそれを当然と考え、そうした固定的な考え方に縛られて生活しています。

私たちは、日本のすばらしい文化や伝統を大切にしながら、日本国憲法にうたわれている個人の尊重、男女平等の理念にもとづき、性別による差別的な取扱いや性に起因する暴力の根絶を目指し、男女が個人として能力を発揮する機会を確保することにより、全ての人が社会のあらゆる分野で自立し、自分の存在に誇りを持つことができると同時に、一人の人間として敬意が払われる社会づくりが必要です。

◇重点目標1 男女の固定的役割分担意識を解消し、男女が共に主体的に生きるための意識改革

男女共同参画社会を形づくる上での大きな障害は、「男だから、女だから」という固定的な役割分担意識であり、これが個人の多様な生き方を制限しています。多くの人は、これを無意識のうちに当たり前だと思い、疑問に思うことなく受け入れてきました。男女共同参画社会を実現するためには、こうした意識を改めていくことが何より大切です。

また、こうした意識は幼い頃から家庭や地域、学校など様々なところで潜在的に植え付けられたものであり、男女共同参画社会の実現のためには、学校をはじめ地域や家庭で、子どもに対して正しい認識を持たせることが必要です。

性別による差別や偏見は、無意識のうちに身についたものであり、自分が差別意識を持っているという事さえ気付かない場合も多いものです。意識して身近なところから問題点を発見し、それを解消するように努め、全ての人が性別にかかわらず多様な選択にもとづいて個人としての能力を十分発揮できる社会となるよう意識改革を進めましょう。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・どちらでもできる仕事なのに、無意識のうちに、これは「男の仕事」、これは「女の仕事」と決めつけて、普段は疑問も感じない。
- ・整列するときに自然と男が前に並ぶ。
- ・会合の時の飲食の準備や片づけは女性の仕事で、当然だと思われている。

【施策の方向及び具体的取組】

◆意識改革のための啓発事業の推進

- ・町広報紙、ホームページを利用した啓発活動や情報提供
(町報みささに「男女共同参画コーナー」の設置等)

◆男女共同参画の視点に立った教育、学習機会の提供

- ・部落学級等を活用した研修の実施（生涯学習の充実）
- ・学校における教育の充実
(学校で行われている日常活動や学校運営の方法も含む)

- ・小中学校での啓発ポスターコンクール等の実施

- ・家庭内での役割分担を見直したり、話し合う機会を設ける（住民の努力目標）

◆性別による固定的役割分担意識にとらわれない表現の使用

- ・町が発行する印刷物等に固定的役割分担意識を連想させる表現を使用しない

主管課

総務課

地域振興課

教育総務課

生涯学習課

◇重点目標 2 女性に対するあらゆる暴力の根絶

最近、夫や恋人から受ける暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が深刻な社会問題となっています。このような暴力は女性の人権を侵害する重大な問題です。また、DVは家庭内でおこっている問題であり、周囲からは見過ごされやすく潜在化してしまうことから、その被害を深刻にしています。

本町においても意識調査によると8.3%の方が、DVを「直接経験した」または「身近に当事者がいる」と回答しており、大きな問題となっています。暴力を無くすための啓発はもちろん、被害が深刻化しないうちに発見する体制づくりや、被害にあったときに相談しやすい環境をつくる必要があります。

また、セクシャル・ハラスメントは、個人の尊厳を傷つけるだけでなく、女性の就業意欲の低下や能力発揮を阻害するものであり、許されない行為です。セクシャル・ハラスメントが人権問題であるということを徹底するため、広報啓発が必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・DVは単なる夫婦げんかではなく、暴力による支配と服従であり重大な人権問題である。
- ・DVは家庭内の問題や個人的な問題ではなく、社会問題である。

【施策の方向及び具体的取組】

◆DVに対する社会認識の徹底

- ・町広報紙、ホームページを利用した啓発活動や情報提供
- ・部落学級等を活用した研修の実施（生涯学習の充実）

◆相談体制等の充実

- ・救済支援及び相談機関との連携強化
- ・DVを発見した時又は受けた時の相談窓口の周知、広報
（よりん彩の相談窓口カードの活用等）
- ・カウンセラー等の設置（非常設）
- ・被害者に接する機会のある職員（保健師等）の研修及び関係機関（社協等）との連携

◆セクシャル・ハラスメントに対する社会認識の徹底

- ・セクシャル・ハラスメント防止に関する啓発



◇重点目標 3 性と生殖に関する意識の浸透

女性はその体の中に妊娠や出産のための機能が生まれながら備わっており、生涯を通じて男性とは異なる健康上の問題に直面します。子どもを産むか産まないか、いつ何人産むか、どんな避妊方法をとるかなどについて個人に選択の自由を保障する考えとして「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」という言葉が生まれ、国連人口会議（1994年）、北京女性会議（1995年）で認められ、2000年国連女性特別総会でも再確認されました。

これは男女を問わない権利ですが、産む性である女性にとって特に重要性を持つことは言うまでも

ありません。

男女共同参画社会の実現にあたっては、こうした性と生殖に関する認識を深め、男女がともにそれぞれの身体的特徴を理解しあい、互いの身体をいたわることが大切です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・結婚したら子供を持って当然と思われている。

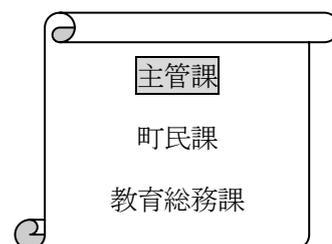
【施策の方向及び具体的取組】

◆性と生殖に関する意識の浸透

- ・性と生殖に関する健康について啓発
- ・学校における性教育の充実
(発達段階に応じた正しい教育を)

◆母子保健事業の充実

- ・母子保健に関する相談体制の充実
- ・検診及び健康相談の充実
- ・妊産婦、新生児指導の充実



◇重点目標 4 国際社会との連帯及び交流の促進

フランスのラマルー・レ・バン町との姉妹都市交流をはじめとした国際交流事業や身近になった海外旅行、インターネットの普及によるグローバル化、さらには、町内在住の外国人の増加など、本町においても国際化が進展しています。地域の国際化が進んだことにより、地域の女性問題と国際社会の女性問題は、深い関わりもあるものとなってきました。さまざまな住民レベルの国際交流を通じて、他の国の女性問題や男女共同参画推進についての理解を深めるとともに、国際社会から見た日本の男女共同参画の推進状況について認識することが大切です。

また、町内で暮らす外国人においては、言葉や文化、習慣の違い等による問題を抱えている人が少なくありません。これらの人たちが暮らしやすい環境を整えるため、情報提供や相談体制の充実を図ることが必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・欧米に比べると日本の男女共同参画は遅れている気がする。

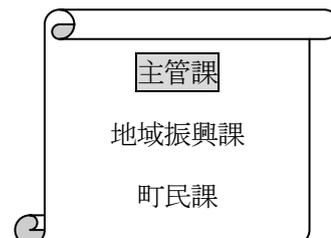
【施策の方向及び具体的取組】

◆住民レベルの国際交流の推進

- ・交流を通じて、世界的な視点から日本の男女共同参画を考える
- ・外国の女性問題や男女共同参画に関する相互理解

◆町内在住の外国人が暮らしやすい環境整備

- ・町内在住の外国人に対する情報提供の充実



◆基本目標Ⅱ あらゆる分野で男女共同参画を進めることができる社会づくり

男女がいきいきと主体的に生きるためには、あらゆる分野で男女がともに対等な構成員として、政策や方針決定の過程に責任を持って参画することが必要です。

また、古くからの性別による固定的な役割分担意識を前提とした制度や慣行は、あらゆる分野で活躍しようとする女性にとって障害となるだけでなく、自由な生き方を望む男性にとっても障害となるものであり、こうした制度や慣行を是正することにより、個々の生き方を尊重する社会にしていく必要があります。

◇重点目標1 政策決定等への男女共同参画の推進

女性の社会参加はあらゆる分野で進んでいるように見えますが、政策や方針決定の場への女性の参画となると、議会における女性議員の比率等に代表されるように未だに充分とはいえません。住民の半数は女性であるので、男性中心の政策決定システムを見直し、女性の意見や考え方をあらゆる分野に反映させることが必要です。

また、一方で、町民意識調査の結果に見られるように男性に比べて女性の方が、政策決定等の場へ

の参画に消極的な人が多く、意識改革とともに人材育成が必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・ 議会は、制度上は誰でも立候補できるが、普段から地域の役員等として活動していないと現実的に立候補は難しい。(地域の役員等に女性を増やすことが先)
- ・ 行政懇談会等で、男性ばかりの役員で要望書を作成するため、ハード面のみで、女性の要望が盛り込まれていない。
- ・ 集落の会合には、世帯1人ではなく夫婦で参加するのがよい。

【施策の方向及び具体的取組】

◆行政分野における政策、方針決定における女性の参画拡大

- ・ 各種審議会、委員会等への参画促進
(男女の構成比率は各40%以上を目標とする)
- ・ 行政関係者の意識改革

◆地域及び各種団体での女性の参画拡大

- ・ 地域、集落及び各種団体への女性参画の働きかけ
- ・ 各種団体等の指導者の意識改革
- ・ 先進地区(集落)の紹介等

◆女性の意識改革と人材育成

- ・ 女性の意識改革やリーダー育成のための啓発及び研修



◇重点目標2 男女共同参画の視点に立った社会通念の確立

男女共同参画社会の実現のためには、集落、PTA、老人クラブ等の地域の団体等の活動について、男性中心の運営から脱却し、指導者層への女性の就任を促進し、その意見を団体、グループ等の運営に反映させるよう社会通念を確立していく必要があります。

一方では、ボランティアや社会福祉活動等については、男性の参画が十分でないので、その促進を図るため、男性対象の啓発活動等に取り組む必要があります。

なお、このように地域社会の諸活動に参画していくためには、家族が男女共同参画について話し合い、その大切さについて理解しあうことが必要となります。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・集落や公民館の役員は全て男性で、世話をするのは女性である。
- ・会合で女性が発言すると生意気ととられる。

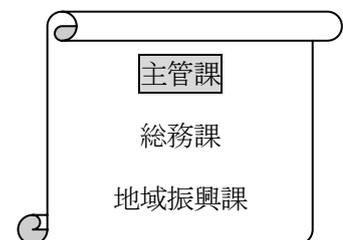
【施策の方向及び具体的取組】

◆社会の制度や慣行等を是正するための啓発

- ・町広報紙、ホームページを利用した啓発活動や情報提供

◆地域等での慣行の見直し

- ・地域役員等の意識改革
- ・意識改革のための講演会、研修会の開催または開催情報の提供
- ・ボランティア活動等への男性の参画促進



◇重点目標 3 男女共同参画のための自立支援

男女共同参画社会づくりを進めていく上では、社会を構成する個人一人ひとりが生活のあらゆる面で生涯自立して生きることができる制度や条件が整っていること及び個人の自立意識が確立していることが必要です。

家庭においても固定的役割分担意識にとらわれずに、男性も家事や育児に積極的に参加し、女性も大工仕事のような男の仕事とされていた分野に参画し、日常生活において性別による垣根のない役割を担うなど、家族それぞれが男女共同参画について十分理解することが必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・男が家事をしたくても仕方を知らない。
- ・日常生活で自立できていない男性は、妻に先立たれた場合に生活できない。

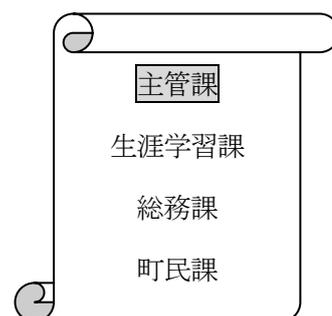
【施策の方向及び具体的取組】

◆生活面及び精神面における自立支援

- ・生涯学習の充実
(男性の料理教室、介護教室等)
- ・意識改革のための広報啓発

◆一人親家庭に対する支援

- ・一人親家庭の自立支援及び支援制度の周知



◇重点目標 4 男女共同参画の視点に立った高齢社会への対応

本町では、全国平均を上回るペースで急速に高齢化が進んでいます。高齢者人口の3分の2は女性であり、高齢者介護は主に女性が担っているなど高齢社会の到来は、特に女性に対して大きな影響を及ぼしています。

高齢社会において、男女共同参画を推進していくためには、高齢者が男女を問わず長年培ってきた豊かな知識や経験を有効に発揮できるようにしていくことが必要です。

また、高齢者の介護については、その負担が家族、中でも女性に集中することがないよう男性の介護参加を促すこととともに、在宅介護支援施策等をはじめとした公的サービスの一層の充実及び地域や家族全体で介護者を支える体制づくりが必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・介護の負担が女性に偏っている。
- ・高齢男性の家事など自立することが必要である。

【施策の方向及び具体的取組】

◆高齢者の社会参加の促進

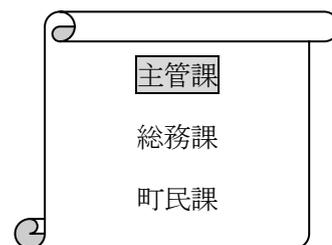
- ・ シルバー人材センターの活用と人材育成
- ・ 高齢者の社会参加支援
(高齢者パソコン教室の開催等)

◆介護サービスの充実

- ・ 公的介護サービスの充実
- ・ 男性の介護への参加促進

◆高齢者の生活支援

- ・ 高齢者の自立支援、相談体制の充実



◆基本目標Ⅲ 職場、家庭及び地域において多様な生き方を選択できる社会づくり

すべての職業において、男女の差別なく能力と実績だけで評価されることは、本来は当然であるべきですが、実際には女性の雇用機会や待遇等は厳しいのが実情です。職場において女性が対等なパートナーとして働くためには、女性はその職業能力を一層高めることも必要ですが、女性の負担となりやすい子育て、介護等の負担を男性が分担したり、社会が支援したりすることも必要です。

また、農林業や商工業等の自営業においては、女性が重要な役割を果たしているにもかかわらず、その労働が適正に評価されているとはいえ、適正な労働条件を確保することも困難となっています。

男女共同参画社会の実現のためには、これまで主に女性の負担となっていた家庭における家事等の役割分担を見直すなどして、男女がともに家庭生活と職場、さらには地域活動等を両立させ、女性だけでなく男性にとっても多様な生き方を選択できるようにしていくことが重要です。

◇重点目標 1 男女平等な雇用環境の整備

男女雇用機会均等法など法制度の面においては、女性の就業環境の整備は進んできましたが、依然として男女の就業状況の格差は残っており、職場における女性の不平等感は根強いものがあります。

女性の就業環境の向上は、女性の経済的自立を促し、男女共同参画社会の実現に資するものであり、職場において男女が平等にパートナーとして働けるように法制度に関する情報提供や就業支援を行っ

ていく必要があります。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・同一労働での男女の賃金格差は、労働分野での最大の性差別である。
- ・女性の社会進出は、家事や育児との二重の負担となっている。

【施策の方向及び具体的取組】

◆平等な雇用環境実現のための啓発

- ・町内事業所等に対する啓発
- ・商工団体との連携強化
- ・男女雇用機会均等法の定着を図るための啓発

◆職業能力開発の支援

- ・職業能力開発に関する情報提供



◇重点目標 2 農林業、自営業におけるパートナーシップの確立

農林業や自営業に従事する女性は、生産や経営の実質的な担い手として重要な役割を果たしているにもかかわらず、経営や事業運営の方針決定等は男性中心に行われることが多く、女性の役割が適正に評価されているとはいえません。

また、農林業や自営業は家族経営が多く、生産や経営が生活と密接不可分であることから、労働時間や休日の確保など就業条件の整備を図り、誰もが充実感を持って働ける環境づくりが必要です。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

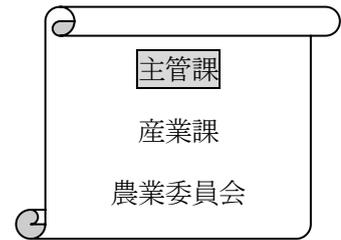
☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・農家は共働きなのに帰宅して炊事、洗濯物の取り込みは女性がしている。
- ・夫婦共同で農業をしているのに、営農表彰等は夫だけ。

【施策の方向及び具体的取組】

◆自営業等における女性の役割の適正な評価

- ・女性の労働に対する適正評価と方針決定への参画促進
- ・家族経営協定の普及促進



◇重点目標 3 家庭と他の活動の両立及び多様な生き方支援

男女がともにあらゆる分野に参画していくためには、家事、子育て、介護等の家庭責任を男女がともに担うことが必要ですが、現実には男性が家事労働に従事する時間は極めて短く、家事、子育て、介護等は、女性が主に担っている状況にあります。これらの活動等にも積極的に男性も携わり、誰もが豊かに暮らせるよう意識改革を図っていくことが必要です。

また、育児介護休業法等の育児や介護に関する制度の整備が進められてきましたが、特に中小企業等において休業が取得しにくい実態があります。育児介護休業制度等の一層の普及を図り、働く男女が安心して子供を持ち、育てられるような環境を整備することが必要です。

家庭や地域における男女共同参画を進めるために、男性がこれまでの仕事中心の生活を見直し、家事、子育て、介護等へ積極的に参画できるよう支援するとともに、労働時間の短縮のための啓発活動等を推進することにより、家庭・地域生活と職業生活の両立が図られ、多様な生き方が選択できる社会環境づくりを進めます。

【策定委員会で話し合われた疑問や課題等の一例】

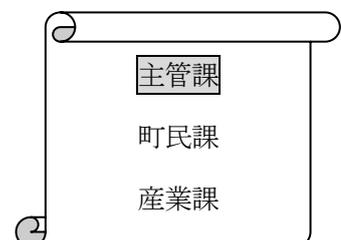
☆こんなことを疑問に思ったり、感じたりしたことはありませんか？

- ・夫が家事や子育てに参加したいと思っても帰宅が毎日遅いので出来ない。
- ・育児休業があっても取りにくい。

【施策の方向及び具体的取組】

◆仕事と家庭の両立支援

- ・育児介護休業法の定着を図るための啓発
- ・男性の家事、育児への参画促進
- ・延長保育、放課後児童クラブ等の充実



◆多様な生き方を選択できる環境づくり

- ・再就職希望者に対する情報提供

第3章 プランの推進に向けて

1 推進体制

このプランに基づいた各種施策を総合的かつ効果的に進めるため、町における推進体制を充実し、各種施策の適切な進行管理を行うとともに、町民及び関係団体との連携を一層強化する必要があります。

(1) 行政における推進体制と進行管理

- ・関係各課等が連携を図りながら、男女共同参画の現状及び問題点の把握並びに調査研究を行い、施策を企画立案し、推進体制の充実及び強化を図ります。
- ・男女共同参画推進組織を設置し、プランの推進と進行管理を行います。

(2) 町民、県及び関係機関等との連携強化

この計画を効果的に推進するため、町民、県、民間団体、商工会、企業等関係機関との連携、協力体制の充実を図ります。

2 プラン推進のための「家庭・地域・職場における男女共同参画のすすめ」

プランを効果的に推進するためには、行政の取り組みだけではなく家庭や地域、職場における取り組みが非常に大切となります。「家庭・地域・職場における男女共同参画のすすめ」を次のとおり定め、それぞれの努力目標とします。(次頁へ)

家庭・地域・職場における男女共同参画のすすめ

家庭では

- 男性も家事、子育て、介護を分担します
- 性別にこだわらないで子どもの個性を伸ばします
- 女性の身体や健康を守る権利を大切にします
- 夫婦間でお互いの人権を尊重して暴力をなくします
- 自営業等における男女のパートナーシップを確立します
- 家庭で男女共同参画について話し合います

地域では

- 地域団体の役割分担を男性中心型から男女共同参画型に改めます
- 地域の中に根強くある男性中心の慣習、しきたりを見直します
- 地域の中で、みんなで子育てを支援します
- 地域で高齢者、一人親家庭を支えます
- 地域における男女共同参画を話し合います

職場では

- 雇用における男女平等を進めます
- 女性が能力を十分発揮できるよう積極的に改善措置を行います
- 男性の育児、介護休業の取得を進めます
- セクシャル・ハラスメントのない職場づくりを進めます
- パートタイム労働など多様な就労条件の整備を進めます

第4章 三朝町男女共同参画意識調査結果

三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査の概要

1 調査の目的

この調査は、三朝町における男女共同参画社会の実現を目指す「三朝町男女共同参画プラン」の策定と今後の男女共同参画推進の基礎資料とすることを目的とした。

2 調査の方法

(1) 調査対象 町内在住の満20歳以上70歳未満の男女300人

(単位：人)

	男性	女性	計
20代	29	24	53
30代	23	24	47
40代	31	29	60
50代	39	37	76
60代	29	35	64
計	151	149	300

(2) 抽出方法 住民基本台帳から各年代別の人口比例配分による無作為抽出

(3) 調査期間 平成17年1月27日から平成17年2月15日まで

(4) 調査方法 郵送による配布・回収

3 調査の内容

(1) 男女の役割分担について

(2) 職業について

(3) 社会参加について

(4) 家庭生活について

(5) 男女共同参画社会について

4 回収結果

	回収数				回収率		
	男	女	無回答	計	男	女	計
20代	8	5	1	14	27.6%	20.8%	26.4%
30代	4	10		14	17.4%	41.7%	29.8%
40代	12	14	1	27	38.7%	48.3%	45.0%
50代	20	18	1	39	51.3%	48.6%	51.3%
60代	18	19	1	38	62.1%	54.3%	59.4%
無回答	1			1			
計	63	66	4	133	41.7%	44.3%	44.3%

三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査結果の概要

1 回収結果について

40代以上に比べて20代、30代の回収率が極端に低く、残念な結果となった。

2 男女の役割分担について

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という性によって役割を決める考え方については、反対意見が賛成意見を上回る結果となった。

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という性によって役割を決める考え方については、反対意見（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が46.7%、賛成意見（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が40.6%と、反対意見が賛成意見を上回っている。

これを男女別に見ると、男性では賛成意見が46.0%、反対意見が44.4%と、賛成意見が反対意見を上回っている。女性では賛成意見が34.9%、反対意見が51.6%と、反対意見が賛成意見を大きく上回っており、性別による役割分担について男女の意識の差が現れる結果となった。

- 女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもち続ける方がよい（一貫就職型）」という意見が約半数を占めた。

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもち続ける方がよい」が48.9%と約半数を占め、続いて「子育てが終わった段階で、再び職業をもつ方がよい（再就職型）」が28.6%と多数を占め、「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」という回答は少数だった。

また、「男性が中心に担ってきた職業分野に、女性が進出することについては」、「能力とやる気があればいろんな分野に進出するのがよい」が71.4%と大半を占めている。一方、「女性が進出できるよう、まず能力開発や条件整備を図るとよい」が18.8%となっており、女性が進出するための条件整備を望む回答が多かった。

- 介護の負担が女性にかかっていることが多い現状については、「男性も積極的に介護する方がよい」という回答が大半を占めている。

介護の負担が女性にかかっていることが多い現状については、「介護には体力がいるので、男性も積極的に介護する方がよい」が64.7%と大半を占めたが、「介護される立場を考えると、女性の方がよい」が20.3%、「女性が介護するのはやむを得ない」という回答が6.0%と介護の負担が女性にかかっている現状を表した結果となっている。また、その他の意見として、「家族全員での介護」や「介護しながら働ける環境整備」を求める意見が見られた。

- 男性も家事、子育て、介護などへの参加を進めるために必要なことについては、子どもの頃からの教育や性別役割分担意識をあらためることなどの意見が多かった。

男性の家事等へ参加を進めるために必要なことについては、子どもの頃からの教育（16.6%）や性別による役割分担意識をあらためる（15.5%）といった意見が多く、男性

が気軽に参加できる家事教室等の開催（14.4%）や男性がとりやすい休暇制度の必要性（12.8%）をあげる意見が続いた。また、「男性は仕事中心という社会全体の構造をあらためること」（10.6%）と「男性が仕事中心の考え方をあらためること」（9.5%）という意見も多かった。

3 職業について

- 職場での男女格差については、「賃金、昇給に差がある」、「職務によって男女で分けしている」といった回答が多く、その原因は「女性は家庭の役割が重く、仕事に集中しにくいから」という回答が多数を占めた。

職場での男女格差については、「賃金、昇給に差がある」（16.6%）、「職務によって男女で分けしている」（16.1%）という回答が多く、「昇任、昇格に差がある」（10.9%）、「採用条件に差がある」（10.0%）という回答が続いた。また、「格差はない」という選択肢を設けていなかったため、無回答の方が、職業をもっていないのか、格差がないと考えているのか区別がつかない結果となってしまった。

職場での男女格差の原因については、「女性は家庭の役割が重く、仕事に集中しにくいから」という回答が23.6%と多く、家事を男女が分担することが、職場の男女格差解消につながるのではないかと考えられる。続いて、「社会意識の中に男女差別意識が残っているから」（15.7%）、「経営者や管理職に男女差別意識があるから」（15.2%）という意見も多く、他の回答は少数にとどまった。

- 男女が職場で平等に働くために必要な改革については、「男女とも時間外労働を規制し、仕事中心の生活から仕事も家庭もゆとりの持てる生活環境になるよう改善する」という回答が多数であった。

男女が職場で平等に働くために必要な改革については、時間外労働を規制し、ゆとりある生活環境を求める回答が21.9%と多く、男性の積極的な家事等への参加を求める意見が続いた。

4 社会参加について

- 「あなたは、現在地域の活動に参加していますか」については、「集落や地区の行事」、「公民館活動」及び「その他の地域づくり活動」については女性より男性の参加が高く、「PTAや子ども会活動」及び「ボランティア活動」については、男性より女性の参加が高くなっている。

「あなたは、現在地域の活動に参加していますか」については、年齢構成別に見ると男女ともに40代以上に比べて、20代、30代の参加は低くなっている。また、「集落や地区の行事」、「公民館活動」及び「その他の地域づくり活動」については、女性より男性の参加が高く、「PTAや子ども会活動」及び「ボランティア活動」については、男性より女性の参加が高くなっている。

- 「もしあなたが、地域の役員を依頼された場合どうしますか」については、男女とも「できれば引き受けたくない」、「引き受けない」が大半を占めた。

「もしあなたが、地域の役員を依頼された場合どうしますか」については、男女とも「できれば引き受けたくない」、「引き受けない」が大半を占めた。また、「積極的に引き受ける」と回答したのは、男性が 22.2%に対し、女性は 10.6%にとどまった。

- 「町の各種委員などの政策決定の場への参加を求められた場合どうしますか。」については、男性より女性の方が消極的な結果となった。

（「積極的に参加する」＋「参加したいが時間が取れない」と男性が 63.5%回答したのに対し、女性は 34.9%にとどまった。逆に「参加したくない」と回答したのは、男性が 14.3%だったのに対し、女性は 27.3%と高くなっており、女性が政策決定の場への参加に消極的な結果となった。

また、「審議会の委員等行政が委嘱する委員は女性が男性に比べて少ないのはなぜか」という質問に対しては、「女性自身が行政に関心がないから」が 26.4%と最も高く、続いて「女性が行政に関わることに對する世間の反発が強いから」（20.9%）、「女性は家事・育児に支障をきたすから」（20.0%）が高くなっている。さらに、「女性の社会的地位が低いから」と全体で 13.6%、女性では 16.4%が回答している。

5 家庭生活について

- 家事等を誰がしているかについては、「集落役員など地域活動」、「家の修理等」を除いて、多くは女性が分担している傾向にある。

家事等を誰がしているかについては、「集落役員など地域活動」、「家の修理等」を除いて、多くは女性が分担している傾向にある。また、掃除や洗濯などについて、男性は「夫婦が同程度行っている」という回答多いが、女性は「ほとんど自分」との回答が大半を占めており、家事の分担について男女の意識に大きな差が見られる。

- 結婚について、「本人の意志で決めること」という回答が大半を占め、各年齢階層別に見ても一番多かったが、年齢層が上の世代ではその率が下がる傾向が見られた。

結婚について、「本人の意志で決めること」という回答が大半（59.4%）を占め、各年齢階層別に見ても最も多かったが、年齢層が上の世代ではその率が下がり、40代以上については「人間の幸福は家庭にあるのだから結婚した方がよい」、「精神的にも経済的にも安定するから結婚した方がよい」という回答が多くなる傾向が見られた。

- 晩婚化の理由について、男女とも「仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」という回答が最も多く、「独身生活のほうが自由だから」がこれに続いた。

晩婚化の理由について、男女とも「仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上したから」（23.1%）という回答が最も多く、「独身生活の方が自由だから」（18.7%）、「結婚しないことに對する世間のこだわりが少なくなったから」（13.9%）がこれに続いた。また、「結婚したいと考えていても、出会いの場が少なくなったから」という回答も 11.1%あった。

- 夫婦別姓については、ほとんどの属性で反対意見が多かったが、若い世代ほど「どちら

でもよい」という回答が多くなる傾向が見られた。

夫婦別姓については、「夫婦は同じ姓を名乗った方がよい」という回答が 60.9%をしめ、「別々の性の方がよい」は 0.8%にとどまった。また、「どちらでもよい」という回答も 33.8%あり、若い世代ほど多い結果となった。

- ドメスティック・バイオレンスについては、「直接経験したことがある」という回答の割合は、女性で 6.1%、男性で 1.6%となっている。

夫婦や恋人などから身体的・心理的な暴力を受ける「ドメスティック・バイオレンス(DV)」については、「直接経験したことがある」が 3.8%、「身近に当事者がいる」が 4.5%ある。「うわさは耳にしたことがある」(10.5%)を合わせて、18.8%の人がドメスティック・バイオレンスを身近なものと感じている。

ドメスティック・バイオレンスを受けた場合の支援策については、「誰にも知られずに緊急に公的な機関での保護」が 30.7%と最も多く、「裁判も含めた対処方法の相談」(25.9%)、「自立のための経済的な援助」(24.6%)を求める意見が多かった。

- セクシャル・ハラスメントについては、「直接経験したことがある」と「自分の周りに経験した人がいる」を合わせた回答は女性では 24.2%となっている。

セクシャル・ハラスメントについては、「直接経験したことがある」が 6.8%、「自分の周りに経験した人がいる」が 16.5%となっている。一方、言葉を聞いたことのない人は全くいなかった。

また、直接経験したことがある人で、「相談しなかった」人(33.3%)や「相談できなかった」人(11.1%)が多く、「相談した」人は、22.2%であった。

6 男女共同参画社会について

- 男女共同参画社会をつくるために、学校教育で必要なことについては、「男女の人格を尊重する教育を行うこと」、「性別にとらわれない進路指導を行うこと」という回答が多かった。

男女共同参画社会をつくるために、学校教育で必要なことについては、「男女の人格を尊重する教育を行うこと」が 32.0%で最も多く、続いて「性別にとらわれない進路指導を行うこと」(26.1%)、「保護者の男女共同参画への研修を行うこと」(20.7%)、「教師の男女共同参画への研修を行うこと」(12.4%)の順に意見が多かった。

- 男女共同参画社会をつくるために、重要と思われるものについては、「男女が互いの個性・能力を認め、補い合っている意識をもつ」という意見が多かった。

男女共同参画社会をつくるために、重要と思われるものについては、「男女が互いの個性・能力を認め、補い合っている意識をもつ」(24.7%)という意見が多く、続いて「男女が共同して家事、育児、労働などを担っていく」(17.3%)、「性別による固定的な役割分担意識をなくしていく啓発活動を行う」(12.9%)の順に意見が多かった。

三朝町男女共同参画プラン策定に係る町民意識調査結果

1 回答者の属性

問 1 (1) 性別

区 分	回答数	構成比
男	63	47.4%
女	66	49.6%
無回答	4	3.0%
計	133	100.0%

問 1 (2) 年齢

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20代	14	10.5%	8	12.7%	5	7.6%	1	25.0%
30代	14	10.5%	4	6.3%	10	15.2%	0	0.0%
40代	27	20.3%	12	19.0%	14	21.2%	1	25.0%
50代	39	29.3%	20	31.7%	18	27.3%	1	25.0%
60代	38	28.6%	18	28.6%	19	28.8%	1	25.0%
無回答	1	0.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

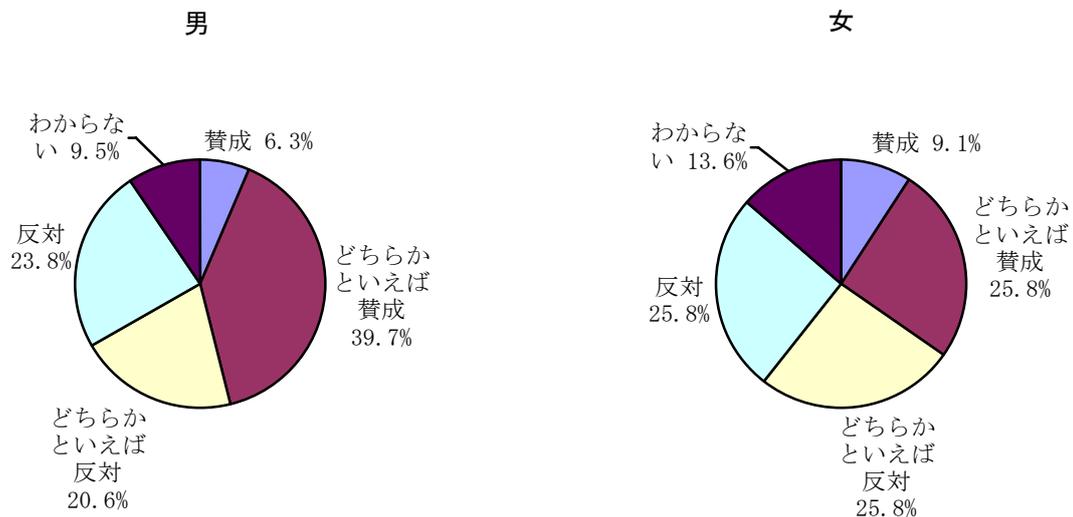
問 1 (3) 婚姻関係

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
未婚	19	14.3%	9	14.3%	9	13.6%	1	25.0%
既婚	95	71.4%	45	71.4%	48	72.7%	2	50.0%
離婚、死別等	8	6.0%	4	6.3%	4	6.1%	0	0.0%
無回答	11	8.3%	5	7.9%	5	7.6%	1	25.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

2 男女の役割分担について

問2 あなたは「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方についてどう思いますか。(1つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
賛成	11	8.3%	4	6.3%	6	9.1%	1	25.0%
どちらかといえば賛成	43	32.3%	25	39.7%	17	25.8%	1	25.0%
どちらかといえば反対	30	22.6%	13	20.6%	17	25.8%	0	0.0%
反対	32	24.1%	15	23.8%	17	25.8%	0	0.0%
わからない	17	12.8%	6	9.5%	9	13.6%	2	50.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%



【その他回答】

- ・妻には外で働かず家事を……。少しでも「ゆとりタイム」をつくって欲しいが、現実共働き。(男、50代、既婚)

問3 あなたは、女性が職業をもつことについてどう思いますか。(1つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性は職業をもたず家庭にいる方がよい	2	1.5%	1	1.6%	0	0.0%	1	25.0%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	4	3.0%	2	3.2%	2	3.0%	0	0.0%
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	13	9.8%	6	9.5%	7	10.6%	0	0.0%
子育てが終わった段階で、再び職業をもつ方がよい	38	28.6%	19	30.2%	17	25.8%	2	50.0%
ずっと職業を持ち続ける方がよい	65	48.9%	30	47.6%	34	51.5%	1	25.0%
わからない	9	6.8%	4	6.3%	5	7.6%	0	0.0%
無回答	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・何歳までを子育ての期間とするのか？価値観の違いがあるので、良い悪いの問題ではないと思う。(女、50代、既婚)
- ・男性も女性同等に人権を尊重し守るべき(男、50代、既婚)
- ・どちらでもない。(男、40代、既婚)

問4 あなたは、今まで男性が中心に担ってきた職業分野に、女性が進出することについてどう思いますか。(1つ)

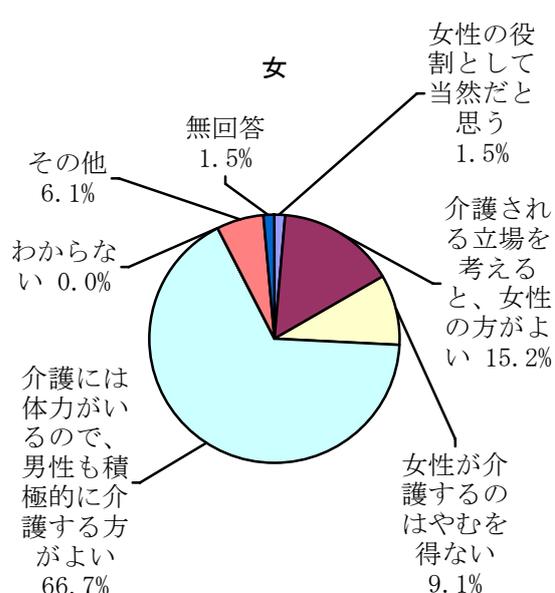
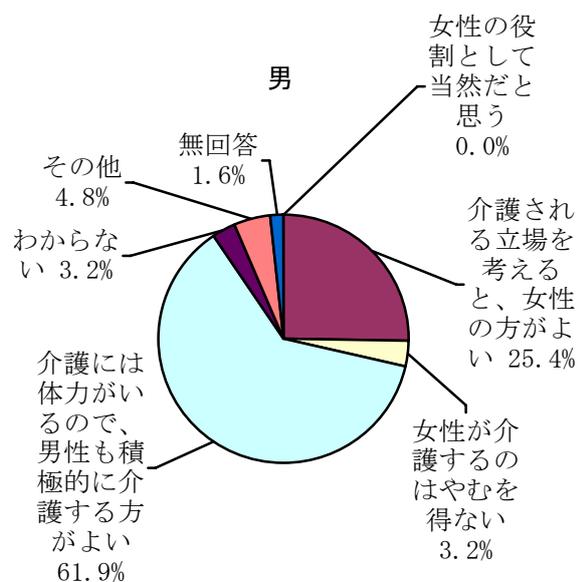
選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
能力とやる気があればいろんな分野に進出するのがよい	95	71.4%	49	77.8%	45	68.2%	1	25.0%
女性が進出できるよう、まず能力開発や条件整備を図るとよい	25	18.8%	11	17.5%	12	18.2%	2	50.0%
女性は従来どおり男性の補助的な分野でよい	6	4.5%	1	1.6%	4	6.1%	1	25.0%
どちらでもよい	6	4.5%	1	1.6%	5	7.6%	0	0.0%
無回答	1	0.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・同等の人権を尊重しあってからの話(男、50代、既婚)

問5 現状では、介護の負担が女性にかかっていることが多いですが、そのことについてあなたは、どう思いますか。(1つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性の役割として当然だと思う	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
介護される立場を考えると、女性の方がよい	27	20.3%	16	25.4%	10	15.2%	1	25.0%
女性が介護するのはやむを得ない	8	6.0%	2	3.2%	6	9.1%	0	0.0%
介護には体力があるので、男性も積極的に介護する方がよい	86	64.7%	39	61.9%	44	66.7%	3	75.0%
わからない	2	1.5%	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	7	5.3%	3	4.8%	4	6.1%	0	0.0%
無回答	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%



【その他回答】

- ・介護は親族全員で。また、介護しながら働く環境整備が必要。(女、40代、無回答)
- ・男性にも意識改革が必要(女、50代、既婚)
- ・介護は女性だけに限らず、体力も必要。男性がもっと理解すべき問題。個々の意識。(男、50代、既婚)
- ・家計に負担がかからない方法を選択する。(男、40代、既婚)
- ・男性は仕事をもっているなので、家にいる女性に負担がかかるのは当たり前、女性の社会進出が進むと変化してくると思う。(女、30代、既婚)
- ・「介護される立場を考えると、女性の方がよい。」「介護には体力があるので、男性も積極的に介護する方がよい。」の両方(男、50代、既婚)

- ・何でも女性まかせになっている傾向にあるので、家族間での話し合いも大切であり、1人1人の認識も必要。(女、20代、既婚)
- ・家族全員で介護するのが望ましい。直接介護をしなくても家事を援助する。自分のことは自分です。精神的援助をする等が必要。(女、40代、既婚)

問6 今後、男性も家事、子育て、介護などへの参加をすすめるために必要なことは何ですか。(3つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女の役割分担意識についての慣習をあらためること	57	15.5%	22	12.6%	32	17.4%	3	30.0%
男性は仕事中心という社会全体の構造をあらためること	39	10.6%	26	14.9%	13	7.1%	0	0.0%
男性がとりやすい休暇制度を普及させること	47	12.8%	26	14.9%	20	10.9%	1	10.0%
仕事と家庭の両立について相談できる窓口をつくること	12	3.3%	5	2.9%	7	3.8%	0	0.0%
家事などを男女が分担する考えで子どもの頃から教育を行うこと	61	16.6%	26	14.9%	33	17.9%	2	20.0%
女性の人権問題に対して男性が意識を高めること	22	6.0%	9	5.2%	12	6.5%	1	10.0%
男性が仕事中心の考え方をあらためること	35	9.5%	22	12.6%	12	6.5%	1	10.0%
女性が経済力をもつこと	15	4.1%	6	3.4%	9	4.9%	0	0.0%
男性も参加することが当たり前だという意識を女性がもつこと	20	5.4%	4	2.3%	15	8.2%	1	10.0%
男性が気軽に参加できる料理、育児、介護講座などを増やすこと	53	14.4%	27	15.5%	25	13.6%	1	10.0%
その他	5	1.4%	1	0.6%	4	2.2%	0	0.0%
無回答	2	0.5%	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%
合計	368	100.0%	174	100.0%	184	100.0%	10	100.0%

【その他回答】

- ・全部あてはまらない。夫婦で相談しあってBestを選択すれば、良いだけの話(女、40代、既婚)
- ・職場復帰のため、休暇中の経済的な安定のための法整備。(女、20代、未婚)
- ・男性も参加するのが当たり前だという意識を男性がもつこと。(女、30代、既婚)
- ・男女の給料格差を無くすことが先決。(男、50代、既婚)
- ・周りの雰囲気も必要(考えの改め方)。すでに参加している人に対しての偏見を持たないこと。(女、20代、既婚)

3 職業について

問7 職業をおもちの方におたずねします。あなたの職場で男女格差があるとすれば、どんなことですか。(全て)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
採用条件に差がある	21	10.0%	13	11.7%	8	8.3%	0	0.0%
職務によって男女で区分けしている	34	16.1%	17	15.3%	15	15.6%	2	50.0%
賃金、昇給に差がある	35	16.6%	16	14.4%	19	19.8%	0	0.0%
昇任、昇格に差がある	23	10.9%	11	9.9%	12	12.5%	0	0.0%
職場の研修の機会に差がある	5	2.4%	3	2.7%	2	2.1%	0	0.0%
結婚、出産を機に退職する慣習がある	10	4.7%	7	6.3%	3	3.1%	0	0.0%
定年の年齢に差がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
残業が男性に集中している	10	4.7%	9	8.1%	1	1.0%	0	0.0%
男性だけに転勤、単身赴任がある	7	3.3%	7	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他	12	5.7%	5	4.5%	6	6.3%	1	25.0%
無回答	54	25.6%	23	20.7%	30	31.3%	1	25.0%
合計	211	100.0%	111	100.0%	96	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・特に格差があるとは感じない。むしろ平等（男、20代、未婚）
- ・女性がない（男、20代、未婚）
- ・格差はないと思っている（男、50代、既婚）
- ・育児、出産が仕事上ではハンディ以外の何ものでもないと考えられ、制度上もそう扱われている。（女、40代、無回答）
- ・専門職なのであまり意識しない（女、50代、既婚）
- ・なし（男、50代、既婚）
- ・確かに男性の方が上だと思うが、その分、責任も男性の方が重い。（女、40代、既婚）
- ・職業をもっているが、自営だから職場のことは分からない。（女、60代、離婚・死別等）
- ・女性ばかりのところなのでありません。（女、50代、既婚）
- ・ない（男、20代、未婚）
- ・上司（女）が、男性には気を遣う。女性に差別心みえる。（無回答、40代、無回答）

問8 職業をおもちの方におたずねします。あなたの職場での男女格差の原因は何だと思えますか。(2つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性はいつ仕事を辞めるか分からないから	9	4.7%	3	3.3%	5	5.4%	1	16.7%
女性は男性より様々な面で能力が劣るから	7	3.7%	2	2.2%	5	5.4%	0	0.0%
経営者や管理職に男女差別意識があるから	29	15.2%	16	17.4%	12	12.9%	1	16.7%
女性は仕事に対する姿勢が甘いから	10	5.2%	5	5.4%	5	5.4%	0	0.0%
女性は家庭の役割が重く、仕事に集中しにくいから	45	23.6%	26	28.3%	17	18.3%	2	33.3%
社会意識の中に男女差別意識が残っているから	30	15.7%	12	13.0%	17	18.3%	1	16.7%
その他	9	4.7%	5	5.4%	4	4.3%	0	0.0%
無回答	52	27.2%	23	25.0%	28	30.1%	1	16.7%
合計	191	100.0%	92	100.0%	93	100.0%	6	100.0%

【その他回答】

- ・今の職場で格差があると思わない(女、50代、既婚)
- ・なし(男、50代、既婚)
- ・どうしてもそうなる。でも女性だけの責任ではない(男、50代、既婚)
- ・差別はあってはいけないが、区別することは当然。男性のように女性は働けないし、責任ももてない。家庭内で女性の役割が大きいのは当たり前。男女格差があるとは思えない。
(女、40代、既婚)
- ・男の仕事。(男、50代、既婚)
- ・女性だけの職場なので、ない。(女、30代、既婚)
- ・ない(男、20代、未婚)
- ・自分の職場には格差はない。(男、50代、既婚)
- ・体力がいる仕事は、男性にするから。(男、20代、未婚)

問9 男女が職場で平等に働くためにはどのような改革が必要だと思いますか。(2つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性は主要な仕事、女性は補助的な仕事という、誤った認識を改める	28	11.6%	13	11.3%	13	10.9%	2	25.0%
女性が仕事に対して厳しい姿勢をもつ	21	8.7%	15	13.0%	6	5.0%	0	0.0%
男女とも時間外労働を規制し、仕事中心の生活から仕事も家庭もゆとりの持てる生活環境になるよう改善する	53	21.9%	24	20.9%	28	23.5%	1	12.5%
女性も積極的に研修などに参加し、能力開発に努める	19	7.9%	9	7.8%	10	8.4%	0	0.0%
男性も積極的に家事・育児・介護に関わる	34	14.0%	14	12.2%	16	13.4%	4	50.0%
男女雇用機会均等法などの法律や制度などで、厳しく男女差別を禁止する	10	4.1%	4	3.5%	6	5.0%	0	0.0%
企業などが男女差別を是正する計画を策定し、積極的に改善する	22	9.1%	8	7.0%	13	10.9%	1	12.5%
男女の賃金格差をなくす	11	4.5%	6	5.2%	5	4.2%	0	0.0%
男女差別についての監督機関や救済機関を設置する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
延長保育や学童保育等を充実する	19	7.9%	11	9.6%	8	6.7%	0	0.0%
公的老人介護施設、介護サービス等の充実を図る	15	6.2%	7	6.1%	8	6.7%	0	0.0%
その他	2	0.8%	1	0.9%	1	0.8%	0	0.0%
無回答	8	3.3%	3	2.6%	5	4.2%	0	0.0%
合計	242	100.0%	115	100.0%	119	100.0%	8	100.0%

【その他回答】

- ・フレックスタイム、子ども同行出勤等、働きながら介護し、子育てできる職場環境をつくること（女、40代、無回答）
- ・古い考えを改め、本当の意味での平等（男、50代、既婚）
- ・子どもが手を離れるまで男女が職場で平等に働くのは無理な話である。（女、40代、既婚）
- ・男女に関係なく能力に応じて登用すべきである。（男、60代、既婚）
- ・「キ」法律を改め、努力義務を義務化に強める。（女、20代、未婚）
- ・「コ」いい少子化対策にもつながると思う。（女、20代、未婚）

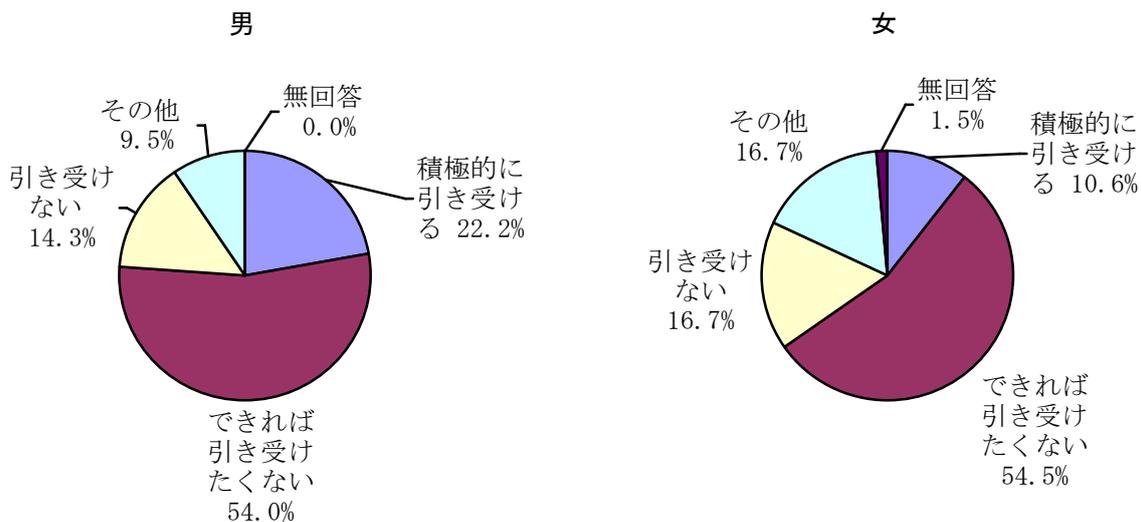
4 社会参加について

問 10 あなたは、現在地域の活動に参加していますか。(全て)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
集落や地区の行事	90	41.3%	45	43.7%	41	38.0%	4	57.1%
P T A や子ども会活動	20	9.2%	7	6.8%	12	11.1%	1	14.3%
女性団体活動	8	3.7%	0	0.0%	8	7.4%	0	0.0%
ボランティア活動	10	4.6%	2	1.9%	7	6.5%	1	14.3%
公民館などの活動 (文化・スポーツ)	40	18.3%	24	23.3%	16	14.8%	0	0.0%
老人クラブ等の活動	2	0.9%	1	1.0%	1	0.9%	0	0.0%
その他の地域づくり活動	16	7.3%	11	10.7%	4	3.7%	1	14.3%
無回答	32	14.7%	13	12.6%	19	17.6%	0	0.0%
合計	218	100.0%	103	100.0%	108	100.0%	7	100.0%

問 11 もしあなたが、地域の役員を依頼された場合どうしますか。(1つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
積極的に引き受ける	22	16.5%	14	22.2%	7	10.6%	1	25.0%
できれば引き受けたくない	71	53.4%	34	54.0%	36	54.5%	1	25.0%
引き受けない	20	15.0%	9	14.3%	11	16.7%	0	0.0%
その他	19	14.3%	6	9.5%	11	16.7%	2	50.0%
無回答	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

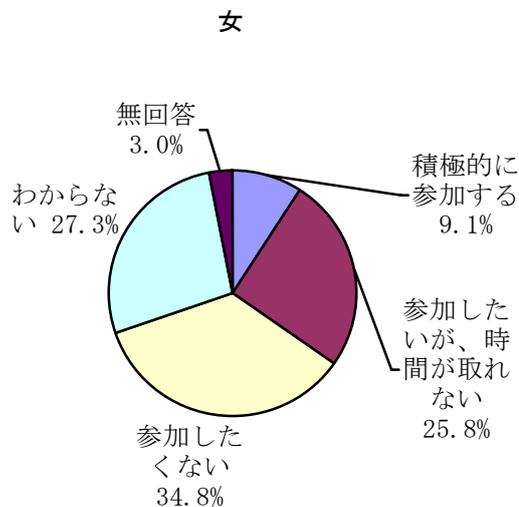
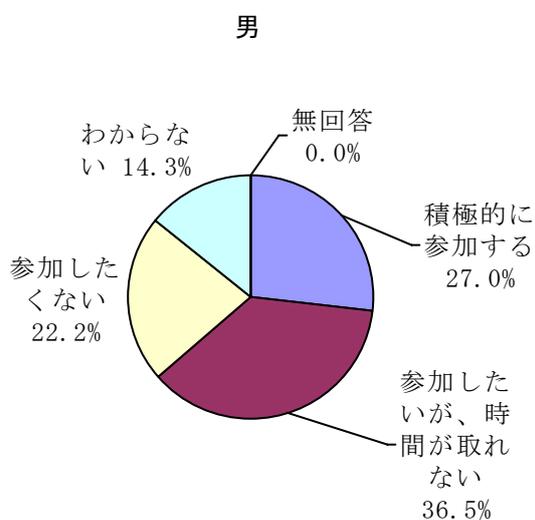


【その他回答】

- ・役が重くならない程度で引き受ける（女、40代、無回答）
- ・今の現状では無理。活動内容にもよる（女、50代、既婚）
- ・集会等が夜に集中しているので、車のない者は参加できない（男、50代、既婚）
- ・役員で言う事とやる事が伴ってなくて失望した。（男、50代、既婚）
- ・役員による。男女共同参画の役ならお断り。（女、40代、既婚）
- ・ゆとりがあれば引き受ける。（女、50代、既婚）
- ・積極的ではないが引き受ける。（役によっては断る）（男、60代、既婚）
- ・立場を判断して引き受ける。（男、60代、既婚）
- ・仕事に差し支えなければ受ける。（女、40代、既婚）
- ・自分が役立てる業務であれば引き受ける。（女、20代、未婚）
- ・できる役であれば、引き受ける。（女、30代、既婚）
- ・役員の種類にもよる。（無回答、20代、未婚）
- ・自分の能力で考える。（男、60代、既婚）
- ・役務によって引き受ける。（男、60代、既婚）

問12 町の各種委員などの政策決定の場への参加を求められた場合どうしますか。（1つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
積極的に参加する	24	18.0%	17	27.0%	6	9.1%	1	25.0%
参加したいが、時間が取れない	42	31.6%	23	36.5%	17	25.8%	2	50.0%
参加したくない	37	27.8%	14	22.2%	23	34.8%	0	0.0%
わからない	28	21.1%	9	14.3%	18	27.3%	1	25.0%
無回答	2	1.5%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%



問 13 一般的に審議会の委員等行政が委嘱する委員は女性が男性に比べて少ないのが現状ですが、それはなぜだと思いますか。(2つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
能力のある女性が少ないから	15	6.8%	4	3.9%	8	7.3%	3	37.5%
女性自身が行政に関心がないから	58	26.4%	24	23.5%	32	29.1%	2	25.0%
女性が行政に関わることに対する世間の反発が強いから	46	20.9%	21	20.6%	24	21.8%	1	12.5%
男性の方が向いているから	4	1.8%	1	1.0%	3	2.7%	0	0.0%
女性は家事・育児に支障をきたすから	44	20.0%	23	22.5%	20	18.2%	1	12.5%
女性の社会的地位が低いから	30	13.6%	11	10.8%	18	16.4%	1	12.5%
わからない	14	6.4%	11	10.8%	3	2.7%	0	0.0%
その他	5	2.3%	3	2.9%	2	1.8%	0	0.0%
無回答	4	1.8%	4	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
合計	220	100.0%	102	100.0%	110	100.0%	8	100.0%

【その他回答】

- ・男性の方が動きやすいから (男、60代、既婚)
- ・女性の方が、家事、育児に向いているから。(女、40代、既婚)
- ・女性は参加したがない。(男、50代、既婚)
- ・委嘱する側の問題では？女性に委嘱する人数が男性に比べて少ないのではないか。(男、50代、既婚)
- ・昔の意識を引きずる、お年をめされた方々が高い地位についているから。(女、20代、未婚)

5 家庭生活について

問 14 あなたの家庭では、次のようなことをどなたがしておられますか。(1つ)

(1) 食事のしたく

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	57	42.9%	3	4.8%	53	80.3%	1	25.0%
夫婦が同程度	8	6.0%	8	12.7%	0	0.0%	0	0.0%
ほとんど配偶者	39	29.3%	38	60.3%	0	0.0%	1	25.0%
主に親や子ども	26	19.5%	13	20.6%	11	16.7%	2	50.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・各自（女、20代、未婚）

（2）食事の片づけ

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	59	44.4%	3	4.8%	54	81.8%	2	50.0%
夫婦が同程度	18	13.5%	15	23.8%	3	4.5%	0	0.0%
ほとんど配偶者	32	24.1%	31	49.2%	0	0.0%	1	25.0%
主に親や子ども	20	15.0%	13	20.6%	6	9.1%	1	25.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	2	1.5%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・各自（女、20代、未婚）

（3）掃除

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	55	41.4%	2	3.2%	52	78.8%	1	25.0%
夫婦が同程度	30	22.6%	24	38.1%	6	9.1%	0	0.0%
ほとんど配偶者	25	18.8%	23	36.5%	1	1.5%	1	25.0%
主に親や子ども	19	14.3%	12	19.0%	5	7.6%	2	50.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	3	2.3%	2	3.2%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

（4）洗濯

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	61	45.9%	8	12.7%	52	78.8%	1	25.0%
夫婦が同程度	11	8.3%	9	14.3%	2	3.0%	0	0.0%
ほとんど配偶者	38	28.6%	35	55.6%	2	3.0%	1	25.0%
主に親や子ども	19	14.3%	10	15.9%	7	10.6%	2	50.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	2	1.5%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

・ 順番で（女、20代、未婚）

（5）買い物

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	54	40.6%	4	6.3%	49	74.2%	1	25.0%
夫婦が同程度	32	24.1%	22	34.9%	10	15.2%	0	0.0%
ほとんど配偶者	27	20.3%	25	39.7%	0	0.0%	2	50.0%
主に親や子ども	16	12.0%	10	15.9%	5	7.6%	1	25.0%
民間サービス	1	0.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	2	1.5%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

・ 各自（女、20代、未婚）

（6）育児

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	21	15.8%	0	0.0%	21	31.8%	0	0.0%
夫婦が同程度	20	15.0%	9	14.3%	10	15.2%	1	25.0%
ほとんど配偶者	17	12.8%	17	27.0%	0	0.0%	0	0.0%
主に親や子ども	2	1.5%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	49	36.8%	27	42.9%	19	28.8%	3	75.0%
無回答	24	18.0%	10	15.9%	14	21.2%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

（7）介護

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	19	14.3%	1	1.6%	18	27.3%	0	0.0%
夫婦が同程度	6	4.5%	2	3.2%	3	4.5%	1	25.0%
ほとんど配偶者	8	6.0%	8	12.7%	0	0.0%	0	0.0%
主に親や子ども	3	2.3%	2	3.2%	0	0.0%	1	25.0%
民間サービス	4	3.0%	4	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	67	50.4%	35	55.6%	31	47.0%	1	25.0%
無回答	26	19.5%	11	17.5%	14	21.2%	1	25.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

(8) 集落役員など地域活動

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	46	34.6%	34	54.0%	11	16.7%	1	25.0%
夫婦が同程度	29	21.8%	10	15.9%	18	27.3%	1	25.0%
ほとんど配偶者	26	19.5%	5	7.9%	20	30.3%	1	25.0%
主に親や子ども	15	11.3%	6	9.5%	8	12.1%	1	25.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	11	8.3%	5	7.9%	6	9.1%	0	0.0%
無回答	6	4.5%	3	4.8%	3	4.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

(9) 学校行事への参加

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	19	14.3%	2	3.2%	16	24.2%	1	25.0%
夫婦が同程度	22	16.5%	11	17.5%	10	15.2%	1	25.0%
ほとんど配偶者	11	8.3%	9	14.3%	2	3.0%	0	0.0%
主に親や子ども	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%
民間サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
該当なし	57	42.9%	31	49.2%	25	37.9%	1	25.0%
無回答	23	17.3%	10	15.9%	13	19.7%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

(10) 家の修理等

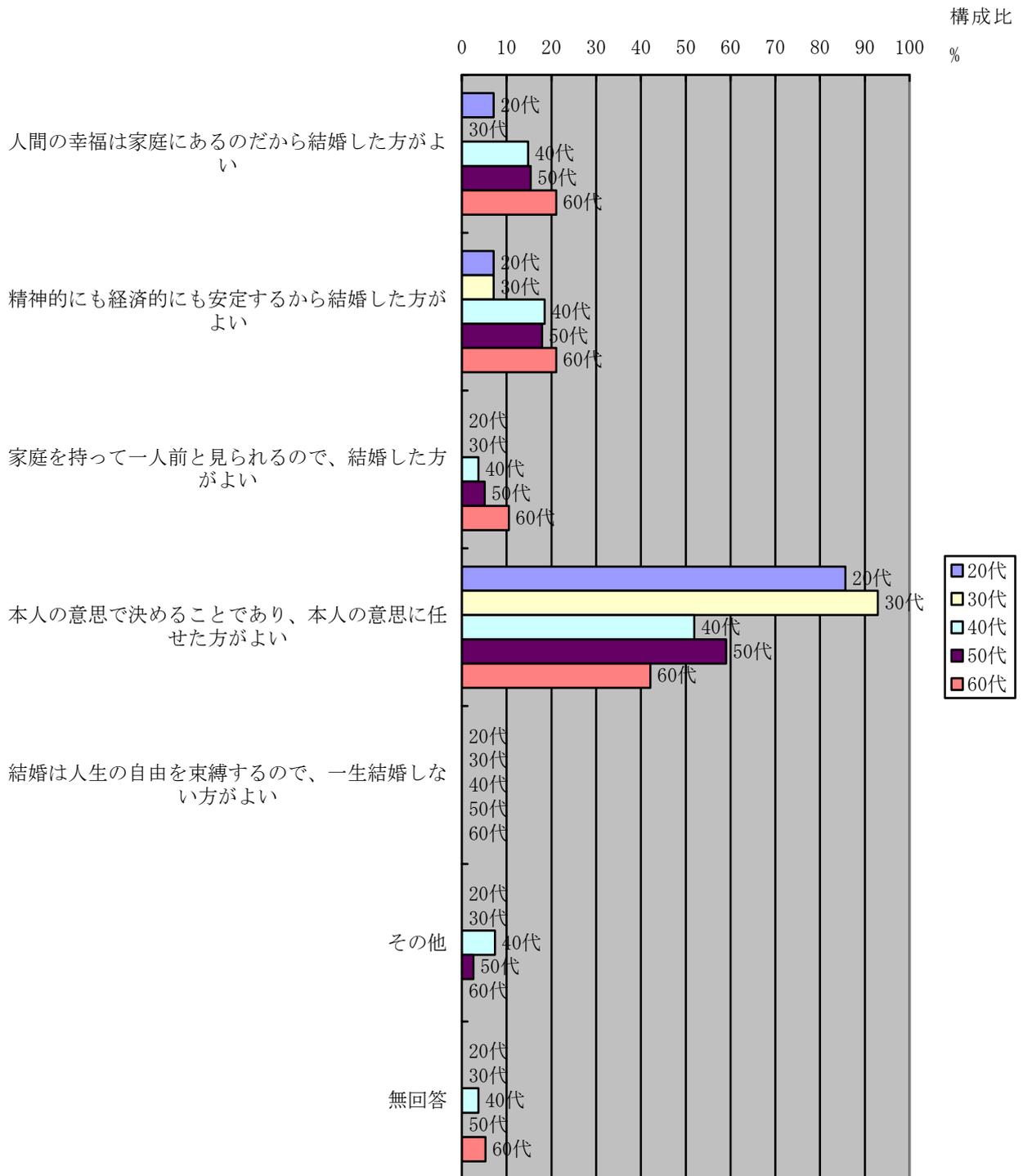
選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ほとんど自分	53	39.8%	43	68.3%	9	13.6%	1	25.0%
夫婦が同程度	9	6.8%	3	4.8%	6	9.1%	0	0.0%
ほとんど配偶者	25	18.8%	2	3.2%	22	33.3%	1	25.0%
主に親や子ども	13	9.8%	4	6.3%	9	13.6%	0	0.0%
民間サービス	10	7.5%	2	3.2%	8	12.1%	0	0.0%
該当なし	15	11.3%	6	9.5%	7	10.6%	2	50.0%
無回答	8	6.0%	3	4.8%	5	7.6%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・能力のある者（女、20代、未婚）

問 15 結婚についてどう思いますか。(1つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
人間の幸福は家庭にあるのだから結婚した方がよい	19	14.3%	12	19.0%	6	9.1%	1	25.0%
精神的にも経済的にも安定するから結婚した方がよい	22	16.5%	14	22.2%	8	12.1%	0	0.0%
家庭を持って一人前と見られるので、結婚した方がよい	7	5.3%	1	1.6%	6	9.1%	0	0.0%
本人の意思で決めることであり、本人の意思に任せた方がよい	79	59.4%	34	54.0%	42	63.6%	3	75.0%
結婚は人生の自由を束縛するので、一生結婚しない方がよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	3	2.3%	1	1.6%	2	3.0%	0	0.0%
無回答	3	2.3%	1	1.6%	2	3.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%



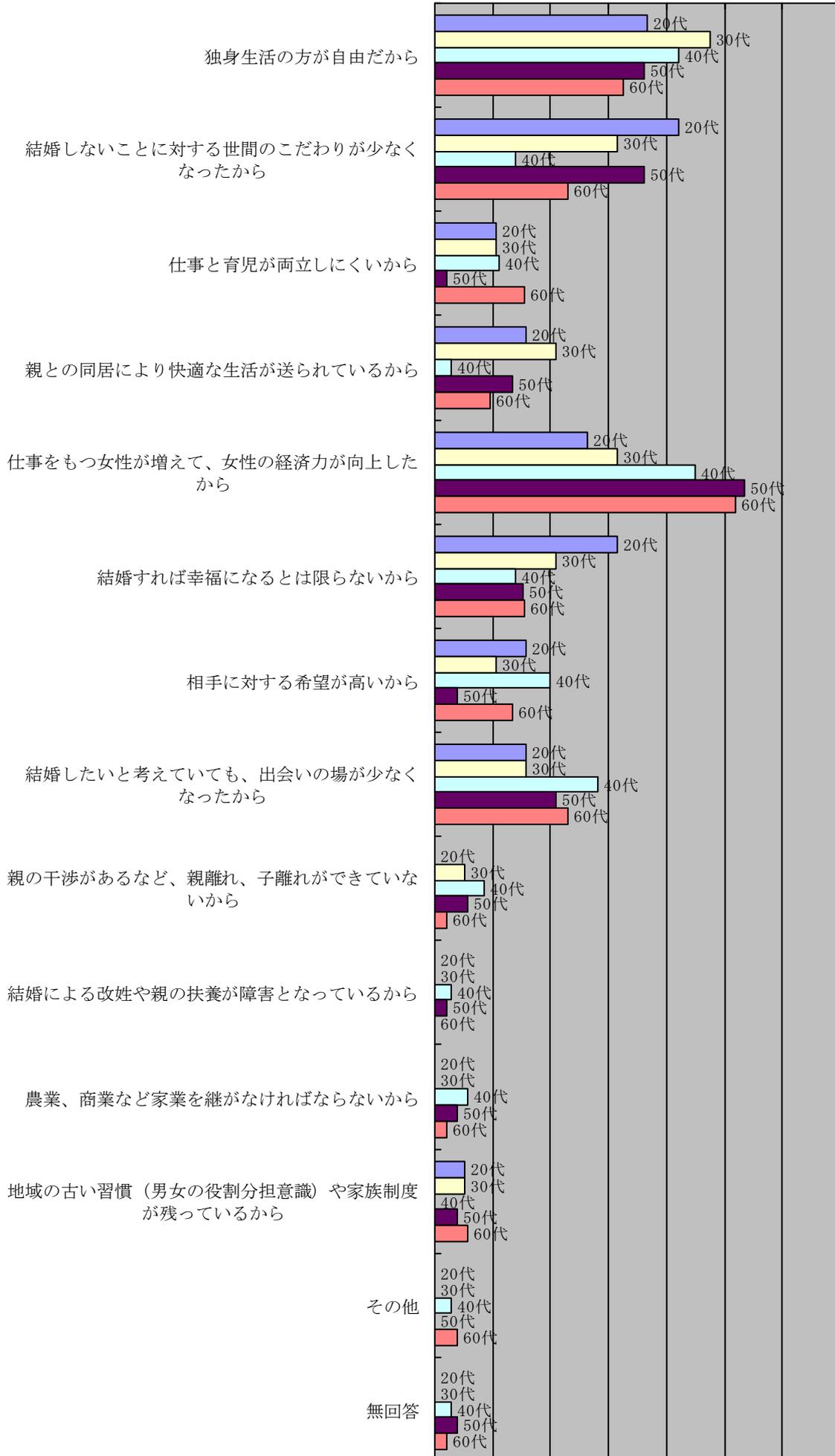
【その他回答】

- ・いい縁があれば、結婚して安定した方がよいのでは。(女、40代、既婚)
- ・ア～オの理由だけで結婚どうのこうの言われたくない。そんな簡単な問題でない。(男、50代、既婚)
- ・結婚は賛成ですが、色々な問題があるので慎重に考えなければならない。(女、40代、既婚)

問 16 全国的に晩婚化が進んでいますが、その理由についてあなたはどのように思いますか。(3つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
独身生活の方が自由だから	67	18.7%	38	22.1%	26	14.9%	3	25.0%
結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから	50	13.9%	24	14.0%	24	13.7%	2	16.7%
仕事と育児が両立しにくいから	17	4.7%	8	4.7%	8	4.6%	1	8.3%
親との同居により快適な生活が送られているから	20	5.6%	5	2.9%	15	8.6%	0	0.0%
仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上したから	83	23.1%	39	22.7%	41	23.4%	3	25.0%
結婚すれば幸福になるとは限らないから	31	8.6%	9	5.2%	22	12.6%	0	0.0%
相手に対する希望が高いから	22	6.1%	13	7.6%	8	4.6%	1	8.3%
結婚したいと考えていても、出会いの場が少なくなったから	40	11.1%	21	12.2%	17	9.7%	2	16.7%
親の干渉があるなど、親離れ、子離れができていないから	8	2.2%	4	2.3%	4	2.3%	0	0.0%
結婚による改姓や親の扶養が障害となっているから	2	0.6%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
農業、商業など家業を継がなければならないから	5	1.4%	3	1.7%	2	1.1%	0	0.0%
地域の古い習慣（男女の役割分担意識）や家族制度が残っているから	7	1.9%	2	1.2%	5	2.9%	0	0.0%
その他	3	0.8%	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.1%	1	0.6%	3	1.7%	0	0.0%
合計	359	100.0%	172	100.0%	175	100.0%	12	100.0%

0 5 10 15 20 25 30 35 %

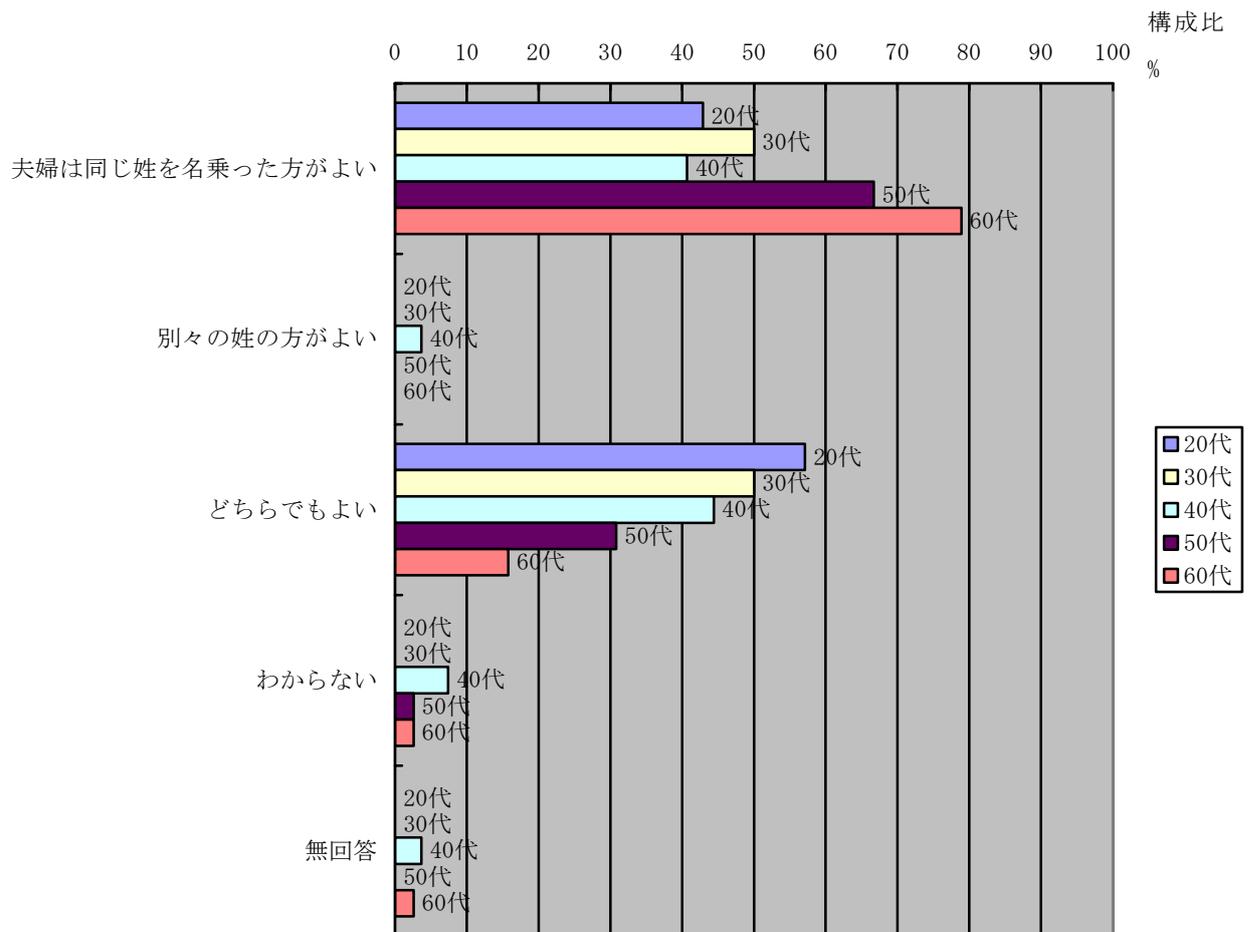


【その他回答】

- ・女性、男性を問わず積極性がない人は、結婚が縁遠くなる。仲人等が以前より少なくなったこと（男、60代、既婚）
- ・結婚に対する意欲がない。また、適齢期を何かの障害で逸した人が多い。（男、60代、既婚）
- ・わからない（男、40代、無回答）

問 17 夫婦別姓についてどう思いますか。（1つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
夫婦は同じ姓を名乗った方がよい	81	60.9%	44	69.8%	35	53.0%	2	50.0%
別々の姓の方がよい	1	0.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
どちらでもよい	45	33.8%	16	25.4%	27	40.9%	2	50.0%
わからない	4	3.0%	2	3.2%	2	3.0%	0	0.0%
無回答	2	1.5%	0	0.0%	2	3.0%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%



【その他回答】

- ・個々の気持ちが強ければ、どちらでも良い。（男、50代、既婚）

問 18 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV、夫婦や恋人又はパートナー間での暴力）について経験したり見聞きしたりしたことがありますか。（1つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
直接経験したことがある	5	3.8%	1	1.6%	4	6.1%	0	0.0%
身近に暴力を受けた当事者がいる	6	4.5%	3	4.8%	3	4.5%	0	0.0%
うわさは耳にしたことがある	14	10.5%	8	12.7%	5	7.6%	1	25.0%
テレビや新聞等で問題になっていることは知っている	97	72.9%	49	77.8%	45	68.2%	3	75.0%
見聞きしたことはない	7	5.3%	2	3.2%	5	7.6%	0	0.0%
その他	1	0.8%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%
無回答	3	2.3%	0	0.0%	3	4.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・各家庭の個人差（男、50代、既婚）

問 19 ドメスティック・バイオレンスを受けた場合、どのような支援策があればよいと思いますか。（2つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
誰にも知られずに緊急に公的な機関での保護	70	30.7%	36	33.6%	33	28.9%	1	14.3%
民間の隠れ家（シェルター）での保護	20	8.8%	7	6.5%	11	9.6%	2	28.6%
自立のための経済的な援助	56	24.6%	20	18.7%	35	30.7%	1	14.3%
裁判も含めた対処方法の相談	59	25.9%	33	30.8%	23	20.2%	3	42.9%
裁判費用等の援助	14	6.1%	8	7.5%	6	5.3%	0	0.0%
その他	2	0.9%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%
無回答	7	3.1%	3	2.8%	4	3.5%	0	0.0%
合計	228	100.0%	107	100.0%	114	100.0%	7	100.0%

【その他回答】

- ・本当の現場では、上記のきれい事では、済まされないと思う。経済的なことばかり。精神的事が大半しめる。（男、50代、既婚）
- ・再発防止策の策定（法制化）。（女、20代、未婚）

問 20 セクシャル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（1つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
直接経験したことがある	9	6.8%	0	0.0%	9	13.6%	0	0.0%
自分の周りに経験した人がいる	22	16.5%	14	22.2%	7	10.6%	1	25.0%
知識として知っている	84	63.2%	40	63.5%	43	65.2%	1	25.0%
言葉だけは聞いたことがある	14	10.5%	6	9.5%	6	9.1%	2	50.0%
そういう言葉は今まで聞いたことがない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	3.0%	3	4.8%	1	1.5%	0	0.0%
合計	133	100.0%	63	100.0%	66	100.0%	4	100.0%

【その他回答】

- ・被害にあった人を知っている。（女、30代、既婚）

問 21 問 20 で『直接経験したことがある』と答えた方におたずねします。あなたはその時、誰かに相談しましたか。（1つ）

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
相談した	2	22.2%	0		2	22.2%	0	
相談しなかった	3	33.3%	0		3	33.3%	0	
相談できなかった	1	11.1%	0		1	11.1%	0	
その他	3	33.3%	0		3	33.3%	0	
無回答	0	0.0%	0		0	0.0%	0	
合計	9	100.0%	0		9	100.0%	0	

【その他回答】

- ・文句を直接言った（女、40代、無回答）
- ・解決した。（女、20代、未婚）

6 男女共同参画社会について

問 22 男女共同参画社会をつくるために、学校教育で必要なことは何ですか。(2つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
校長、教頭が男女共同参画意識への理解を深めること	16	6.6%	7	6.2%	9	7.5%	0	0.0%
教師の男女共同参画への研修を行うこと	30	12.4%	17	15.0%	12	10.0%	1	12.5%
保護者の男女共同参画への研修を行うこと	50	20.7%	25	22.1%	23	19.2%	2	25.0%
男女の人格を尊重する教育を行うこと	77	32.0%	35	31.0%	40	33.3%	2	25.0%
性別にとらわれない進路指導を行うこと	63	26.1%	28	24.8%	32	26.7%	3	37.5%
その他	2	0.8%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%
無回答	3	1.2%	1	0.9%	2	1.7%	0	0.0%
合計	241	100.0%	113	100.0%	120	100.0%	8	100.0%

【その他回答】

- ・校長、教頭、教師、保護者、生徒に至るまで共同（平等）の意識が2者間でどれだけあるか。(男、50代、既婚)
- ・全て×。男性らしさや女性らしさ。家族、家庭の大切さ、人としての生き方を大切にすること。(女、40代、既婚)
- ・実際に社会にある問題を調べ、つきつめる実習的な時間を取り、文章で知識を拾う授業形式をとらないようにする。(女、20代、未婚)

問 23 男女共同参画社会をつくるために、重要と思われるものは何ですか。(2つ)

選択項目	総計		男		女		性別無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
法律や制度の見直しを行う	17	6.7%	9	7.3%	7	5.6%	1	12.5%
性別による固定的役割分担意識をなくしていく啓発活動を行う	33	12.9%	15	12.2%	16	12.9%	2	25.0%
女性が知識や技術を習得するなど、自己能力開発を行う	18	7.1%	6	4.9%	11	8.9%	1	12.5%
女性が政策決定の場などに参画できる環境を整える	18	7.1%	13	10.6%	5	4.0%	0	0.0%
男女が共同して家事、育児、労働などを担っていく	44	17.3%	20	16.3%	23	18.5%	1	12.5%
男女が互いの個性・能力を認め、補い合っている意識をもつ	63	24.7%	29	23.6%	33	26.6%	1	12.5%
労働時間の短縮など男女が家庭内での責任を分担できる働き方を確保する	21	8.2%	9	7.3%	12	9.7%	0	0.0%
行政や企業などの指導的立場の人が理解をもつ	19	7.5%	10	8.1%	8	6.5%	1	12.5%
雇用形態、労働条件に男女の区別をなくし、同等にする	17	6.7%	11	8.9%	5	4.0%	1	12.5%
その他	1	0.4%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%
無回答	4	1.6%	1	0.8%	3	2.4%	0	0.0%
合計	255	100.0%	123	100.0%	124	100.0%	8	100.0%

【その他回答】

- ・全て×。男女共同参画社会は、結局、女性の負担が大きくなるだけである。(女、40代、既婚)

問 24 その他男女共同参画について、ご意見をご自由にお書きください。

- ・男女平等は、生理的諸条件を差し引いた上で、考えた方がよい。(無回答、50代、既婚)
- ・私は、古い考えですが、“平等”全部というのは“ムリ”と思います。平等ということに女性は少しあまえがある様に思います。それと男性も女を守るということを忘れてる。(男、60代、既婚)
- ・平等なのは良いことだが、男女それぞれに適したことがあり、すべてを一律に比較はできないと思う。互いに立場を尊重してゆくことが重要であり、それぞれの都合だけを考えて主張するのではなく補うことが望ましいと思う。(男、無回答、無回答)
- ・「男女共同参画」という言葉は、分かりにくくイメージが湧きにくい(女、40代、無回答)
- ・いよいよ三朝町でも勉強の機会が始まりましたが、出来るだけ多くの方々に参加していただければと思います。(女、60代、既婚)
- ・所詮、この世の中は、男女。男や女だけの責任にしてたら地球は滅びる。男女もない世界

も地球もお互いに半分ずつ責任をもって生きてる。(男、50代、既婚)

- ・結婚、出産、育児は女性にとって、宝物のように尊いものである。なぜ、そう、社会進出や職業のことばかりとられるのか。(お金が大事?)今までの悪い面は改めるべきだが(家庭を顧みない夫とか)古いもの全てが悪ではないはずだ。それよりも、女性として、妻、母として、本来あるべき姿(子どもを大切に、夫を大切に、親を大切に、家庭を守り、地域を愛していくこと)を訴える事の方が大切なはずだ。どんなに社会進出を女性が果たしたとしても定年すれば、余程の能力がない限り”ただの人”になる。しかし、子育ての失敗、夫婦仲の失敗は、取り返しがつかない。いかに結婚、子育てが大切かを訴えるべきです。(女、40代、既婚)
- ・男女それぞれ、役割が違うから、一概には言えないが、お互いに意識を高めてより良い関係を持てるよう努力したい。(女、50代、既婚)
- ・私は、高年齢だから、これからどうしたら良いか等は考えにくい(女、60代、離婚・死別等)
- ・男女共同参画と平行して、住民参画による情報公開等、開かれた町づくりが望まれる。(男、60代、既婚)
- ・上に立つ人の意識が変わることこそが何より大きく社会を変容させる原動力だと思います。そのため高い地位の人々をも区別なく対象とする法を変えることが大切だと考えます。(女、20代、未婚)
- ・女性のことばかり考えすぎだと思う。男女共同参画社会といっても、役割分担は必要だと思う。(男、20代、未婚)
- ・男女の違いも皆が認識する必要があると思う。能力の違う者が同じことをやらされるのは平等といえるのか?自分がしたいと思う仕事、職業、又自分に合っていることが否定されることのない社会を望む。(男、20代、未婚)

参考資料

三朝町男女共同参画プラン策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 三朝町における男女共同参画社会の実現をめざし、男女共同参画施策を総合的、体系的に推進するため、三朝町男女共同参画プラン策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、三朝町男女共同参画プランを策定するために必要な事項を所掌する。

(組織)

第3条 委員会は10名以内をもって組織し、町長が委嘱する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

(任期)

第4条 委員の任期は、男女共同参画プラン策定の審議が終了するまでとする。

(職務)

第5条 委員長は会務を統括し、委員会を代表する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

2 委員会の会議に、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、三朝町総務課に置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成16年9月17日から施行する。

三朝町男女共同参画プラン策定委員名簿

委員長 野口裕子

副委員長 山崎俊臣

所 属 等	氏 名
三朝町男女共同参画推進会議代表	溪 順 子
三朝町女性会議会長	野 口 裕 子
三朝町民生児童委員	安 田 範 子
三朝町教育委員会 委員長職務代行者	百 本 永 子
三朝町人権・同和教育推進協議会 社会同和教育推進員	岩 世 黎 子
三朝町商工会女性部長	藤 井 美 紗 子
三朝町小・中PTA連絡協議会 西小学校PTA会長	藤 井 俊 子
三朝町保育連絡協議会会長	松 田 進
その他学識経験者	山 崎 俊 臣
その他学識経験者	藤 原 賢 治

注) 所属等欄の役職等は委員委嘱時のものです。

三朝町男女共同参画プラン策定までのあゆみ

年月日	取り組みの経過	備考
H16.11.22	三朝町男女共同参画プラン策定委員会設置 (策定委員 10名を委嘱)	
〃	第1回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
〃	町民意識調査検討小委員会を設置(委員3名)	
H16.12.2	第1回町民意識調査検討小委員会を開催	
H16.12.8	第2回町民意識調査検討小委員会を開催	
H17.1.24	第2回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H17.1.27	男女共同参画についての町民意識調査の実施 (対象者300人 H17.2.15まで)	
H17.5.11	第3回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H17.6.8	第4回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H17.6.24	町民意識調査の結果を公表 意見募集	
H17.8.2	男女共同参画プラン策定委員会委員研修会 講師 鳥取短期大学学長 山田修平氏	
H17.12.1	第5回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H17.12.19	第6回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H18.1.16	第7回男女共同参画プラン策定委員会を開催	
H18.1.25	第8回男女共同参画プラン策定委員会を開催	

年月日	取り組みの経過	備 考
H18. 2. 28	広報みささにおいて中間報告	
H18. 3. 1	第 9 回男女共同参画プラン策定委員会を開催	素案調製
H18. 3. 2	素案をホームページ等で公開 意見募集	
H18. 3. 23	第 10 回男女共同参画プラン策定委員会を開催	最終案調製
H18. 3. 27	最終案を町長に提出	